



2022年3月期  
(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

# 決算説明資料

**ENOMOTO Co.,Ltd.**

東証プライム 証券コード:6928

# 1. 2022年3月期決算



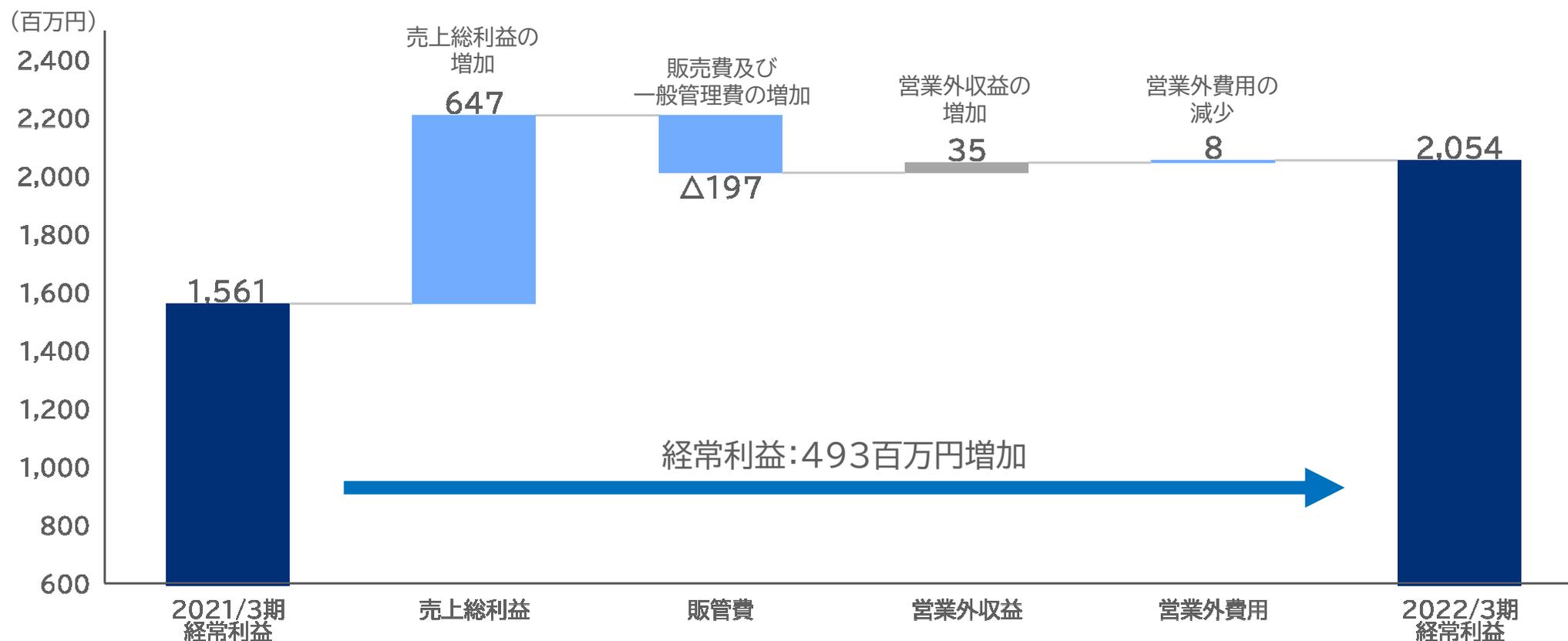
- ・ 2021年3月期下期からの産業用機器の需要回復に加え、自動車の電装化加速及びDX・GXなど社会革新を支えるパワー半導体への強い需要が追い風に
- ・ スマートフォンやウェアラブル端末などへの消費マインドは改善基調が継続
- ・ 銅などの素材高は概ね売価に転嫁、増収効果などにより営業利益は前期比29%増の20億円に

	2021/3期		2022/3期		期比較	
	実績(百万円)	売上比(%)	実績(百万円)	売上比(%)	前年比(%)	売上比増減(pt)
売上高	22,999	100.0	27,250	100.0	+18.5	-
売上総利益	3,815	16.6	4,462	16.4	+16.9	△0.2
販管費	2,252	9.8	2,449	9.0	+8.8	△0.8
営業利益	1,563	6.8	2,012	7.4	+28.7	+0.6
為替差損益	△43	-	34	-	-	-
経常利益	1,561	6.8	2,054	7.5	+31.5	+0.7
当期純利益	1,489	6.5	1,545	5.7	+3.8	△0.8
1株当たり純利益	221.6円	-	230.5円	-		

- ・ IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けや産業用機械向けを中心にパワー半導体向けが好調を継続
- ・ オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイや自動車向けのLEDを中心に需要増加
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォン向けが下期は季節調整、一方でウェアラブル端末向けが復調、車載向けは堅調

単位:百万円	2021/3期					2022/3期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前年比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,735	1,516	1,911	2,123	7,287	2,380	2,288	2,614	2,646	9,929	+36.3%
オプト用 リードフレーム	678	615	530	814	2,639	969	921	878	918	3,686	+39.7%
コネクタ用部品	2,530	3,054	3,686	3,112	12,384	3,320	3,440	3,353	2,840	12,955	+4.6%
その他	168	164	168	187	688	195	198	145	141	679	△1.4%
合計	5,113	5,351	6,296	6,238	22,999	6,866	6,848	6,992	6,545	27,250	+18.5%

- 売上総利益の増加 … リードフレーム、コネクタ用部品共に好調な推移
- 販売費及び一般管理費の増加 … ①取引量の増大と物流単価の高騰による運賃搬送費の増加  
②業務効率化を図る新ERP導入に伴う機器購入費用が一時的に増加
- 営業外利益の増加 … 為替差益の増加等



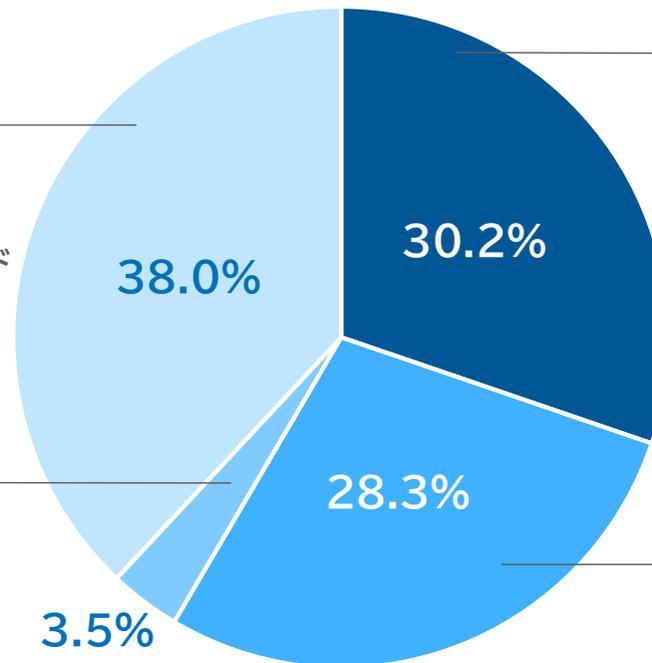
- 各用途とも堅調に推移、特にパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等のディスプレイ向けLED用リードフレームなどが大きく伸長
- スマートフォン向けは前期比増収となったが、下期の季節調整により構成比は低下
- ウェアラブル向けは、上期に新商品発売前の一時的な生産調整があったが、市場は成長中であり下期より復調

## 民生・産機・その他

- 構成比は前年同期の31.0%から 7.0pt増加
- 汎用的用途のパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等のディスプレイ向けLED用リードフレームなどが増加

## ウェアラブル

- 構成比は前年同期の5.3%から 1.8pt減少
- 季節的要因および昨年後半以降の急伸から上期に一時的な調整があったが10月から回復



## 車載

- 構成比は前年同期の29.0%から 1.2pt増加
- 自動車の需要回復により、パワー半導体用リードフレーム、エアバッグ用コネクタ、各種照明向けLED用リードフレーム等が復調

## スマートフォン

- 構成比は前年同期の34.7%から 6.4pt減少
- 当期モデルは立ち上がりが早く1Qから出荷開始
- 季節要因により12月頃からピークアウト

- ・ 増収により売上債権が増加、津軽工場の増設などコネクタ部品等の増産投資により有形固定資産が増加
- ・ 設備投資等により有利子負債も約10億円増加したが、自己資本比率は62.4%と健全

単位:百万円	2021/3期	2022/3期	前年期末差
流動資産	14,143	17,006	2,862
（内、現預金）	3,324	4,365	1,040
（内、受取手形及び売掛金）	7,224	7,790	566
固定資産	11,433	13,167	1,733
（内、有形固定資産）	10,222	11,861	1,638
総資産	25,577	30,174	4,596
負債	8,838	11,545	2,707
（内、有利子負債）	1,198	2,150	951
純資産	16,739	18,628	1,889
負債純資産	25,577	30,174	4,596

- ・ 増益により、営業キャッシュフロー33.3億円と前期比8億円増加
- ・ 津軽工場の増築に伴う支出から、投資キャッシュフローも△29.6億円となったが、フリーキャッシュフローは3.6億円のプラスを維持

単位:百万円	2021/3期	2022/3期	前年期末差
営業活動によるキャッシュフロー	2,506	3,331	+825
税引前当期純利益	1,457	2,083	+625
減価償却費	1,546	1,664	+118
棚卸資産の増加	△360	△859	△499
投資活動によるキャッシュフロー	△2,402	△2,965	△562
有形固定資産の取得による支出	△2,471	△2,840	△370
財務活動によるキャッシュフロー	△113	386	+500
短期借入金の純減少額	△170	48	+218
長期借入れによる収入	500	1,000	+500
長期借入金の返済による支出	△124	△99	+24
配当金の支払い額	△238	△408	△170
現金及び現金同等物の期末残高	3,324	4,365	+1,040
フリーキャッシュフロー	103	366	+263

## 2. 2023年3月期業績予想



- ・ パワー半導体向けを中心とするリードフレームが牽引し、売上高は過去最高の286億円を予想
- ・ 津軽工場増設やパワー半導体用リードフレーム増産等による減価償却費の増加1.5億円を吸収し  
営業利益は9%増の22億円、当期純利益も6%増の16.5億円といずれも過去最高を予想

	2022/3期		2023/3期		期比較	
	実績(百万円)	売上比(%)	予想(百万円)	売上比(%)	前年比(%)	売上比増減(pt)
売上高	27,250	100.0	28,600	100.0	+5.0	-
売上総利益	4,462	16.4	4,650	16.3	+4.2	△0.1
販管費	2,449	9.0	2,450	8.6	+0.0	△0.4
営業利益	2,012	7.4	2,200	7.7	+9.3	+0.3
経常利益	2,054	7.5	2,200	7.7	+7.1	+0.2
当期純利益	1,545	5.7	1,650	5.8	+6.8	+0.1
1株当たり純利益	230.5円	-	247.4円	-	-	-

- IC・トランジスタ用リードフレームはパワー半導体向け等が増加、クリップボンディングリードフレームの生産能力増強も貢献
- オプト用リードフレームは横ばいで推移
- コネクタ用部品は、スマートフォンの普及一巡による影響はあるがウェアラブル端末向けが成長

	2022/3期		2023/3期		
	実績(百万円)	構成比(%)	予想(百万円)	構成比(%)	前年比(%)
IC・トランジスタ用 リードフレーム	9,929	36.4	11,000	38.5	+10.8
オプト用 リードフレーム	3,686	13.5	3,600	12.6	△2.3
コネクタ用部品	12,955	47.5	13,700	47.9	+5.8
その他	679	2.5	300	1.1	△55.8
合計	27,250	100.0	28,600	100.0	+5.0

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。